

『歩く県道・銀山街道』

地域づくりニュース Vol.2

第2回「歩く県道（銀山街道）」利活用検討会を開催しました。10月17日（美女峠）と10月22日（銀山峠）に行った街道修繕の実証実験についての検証と信越トレイルの視察報告を受けて、意見交換を行いました。地域の住民や関係自治体が一緒に今後の地域づくりについて考え、有意義な検討会になりました。

第2回利活用検討会の開催概要

平成25年12月5日（木）午後5時～8時40分 三島町町民センターにて

● 参加者

銀山峠を復活させる会、郷土史家、吉尾峠を越えた交流再生の会、「あなたの永遠の故郷づくり」を推進するみんなの会、三島町間方区長、三島町高清水地区住民、青木山を守る会、奥会津温泉郷協議会、わくわく奥会津.COM、三島町観光協会、銀山街道連絡協議会事務局、三島町・金山町役場、福島県 等合計20名

● 話し合われたこと

実証実験を振り返り、施工方法や管理の仕方等について検討を行うとともに、道普請に参加した感想などもお伺いしました。

地域づくりの進め方について、行政と住民が連携できる体制づくりや総合的なビジョンの必要性などについて、活発な意見交換が行われました。



実証実験を振り返り、ご意見、感想をお伺いしました

作業終了後の記念写真(美女峠)



銀山街道連絡協議会、わくわく奥会津.COM、一般ボランティア、三島町・柳津町・昭和村役場の皆さんで作業を行いました。

土側溝と木橋を施工しました



丸太や板等の材料を利用して、短時間で歩きやすい安全な道ができる事に感心した。

一番ぬかるみのひどい場所に土側溝を施工した。ぬかるみの改善状況や、雪による影響等の経過を観察したい。

美女峠

《実施日時》平成25年10月17日（木）

《参加人数》29名

《主な作業内容》

- ・ぬかるみ改善のため土側溝を施工。
- ・沢を渡りやすくするため木橋を施工。
- ・道の中央にある大きな木の根を除去。



道の真ん中を塞いでいた大きな木の根を除去しました

みんなで力を合わせて道普請を行ったことに意義がある。一体感があり、楽しく作業が出来た。



銀山峠

《実施日時》平成25年10月22日（火）

《参加人数》26名

《主な作業内容》

- ・安全に歩けるように橋橋を施工。
- ・山側を掘削して道幅を広げ、谷側に丸太土留工を施工。

施工のしやすさは大切だが、場所によって整備のコンセプトを決め、訪れた人が歴史的な面影を感じたり、自然に親しみを感じたりしながら歩ける道になると良い。

道を広げ丸太で土留を行いました



今後の地域づくりについてのご意見をご紹介します

- 奥会津では過疎や高齢化が進行しており、地域の住民だけで活性化に向けた取り組みを継続していく事は難しい。県や市町村、地域住民が連携できる体制をつくる必要がある。
- 今後の地域づくりについて総合的なビジョンをつくる必要がある。そして住民がそのビジョンに基づく「歩く県道」整備の目的を理解することで、参加者が増える。「歩く県道」の整備を行うことで、地元がどう変わっていくのかという視点が大切。
- 「歩く県道」の整備と活用を、鎌倉沢や恵みの森等の地域資源や空き家を活用した取り組みと関連させた施策にした方が良い。
- 三島町間方地区には、大辺峠の案内人がいる。今後、美女峠の案内人も養成し、地元の活性化に繋げていきたい。
- 峠道を歩きたいと思った人がいつでも訪れる事ができるように、送迎の手法を整える必要がある。ウォーキング大会等のイベント時以外の来訪者を増やす事が地域の活性化に繋がる。
- 銀山街道を会津若松の大町四つ角から只見町小林に至るまでの広域的・面的な視点でとらえた取り組みを行うことで、街道の魅力が増し、それが麓の集落の活性化に繋がる。
- 人を呼ぶためには地域資源も大切であるが、一番重要なのは、地域の人々がどう関わるかという事。地元の理解を得て、訪れた人が「来て良かった」と思えるような対応が出来るようになると良い。
- 民間が積極的に動くために新組織を作った方が良い。自分達は何が出来るのかを考え、自主的な事業を展開することで、街道の活用が進む。(新組織については、次回の検討課題とする)
- マップの作製は、自分達で出来る作業の1つ。マップを見て自主的に訪れる人が出てくるので、その人達に対して、どのようなおもてなしをするのかを考えなければならない。身近に出来る作業を積み上げていく事が大切。



信越トレイルの視察に行ってきました

◆実施日◆ 平成25年11月6日(水)~7日(木) ◆主催者◆ わくわく奥会津.COM ◆参加人数◆ 8名

「信越トレイル」は、長野県と新潟県の県境に位置する関田山脈を歩く、全長80kmのロングトレッキングコースです。トレイルを利活用した地域づくりについて先進的な取り組みが行われています。銀山街道を活かした地域づくりを進めるにあたり参考となる点が多くあり、参加者が今後の活動意欲を高めた視察となりました。

活動経過について説明を受けました



ガイドの案内を受けながら、トレッキングを行いました



信越トレイルの主な取り組み内容

- **ボランティアの力** トレッキングルートを作るにあたり、8年間で延べ2000人のボランティアの協力を得た。
- **メンテナンスの体制整備** コースを約20の区間に分け、町や集落、観光協会等が責任を持って整備する仕組みを整えた。
- **集落廻りと地域の人々への周知** トレイルに関係する約150の集落を回り、取り組みに対して地域の人達の理解と協力を得る活動を行った。
- **ガイドの重要性** 毎年スキルアップ講座を実施。山だけでなく、里の歴史や文化、救命救急、緊急の救出についての講習を行っている。
- **マイカー回送サービス** JRやバス、タクシー会社の協力を得てお客さんの駅までの輸送や、峠道を歩き終わった所へ車を回送しておく等の利便を図っている。
- **宿泊施設との連携** 峠までの送迎や宿泊客に対する説明が出来る事、年1回メンテナンスに参加すること等を条件に登録宿の制度を実施している。
- **官民協働** 森林管理署に組織の構成員となってもらい、当初から一緒に話し合いを行った事で、行政レベルの交渉をスムーズに進める事が出来た。

次回の検討会では、銀山街道を活用した地域づくりを今後どのように展開していくかについて、話し合いを行います。沿線行政区長の皆さんや関連する行政組織にも参加を呼びかけ、街道整備に止まらず広い視点から意見交換を行いたいと思います。ご協力をお願いいたします。



発行

福島県 会津若松建設事務所
TEL: 0242-29-5455

企画調査課

FAX: 0242-29-5459